

に思う

全国和牛登録協会岡山県支部長

藤井英一郎

全国和牛産肉能力共進会の第一回が、岡山県において開催され、畏くも常陸宮同妃両殿下のご臨場をかたじけのうし、実に華々しく開会され、関係者一同恐懼感激に堪えざるどころでありました。なお同時に出品者各位の約一年間に及ぶ長時日のご飼養に対し、深甚の敬意を表しますと共に、岡山県各出品は洵に粒揃いにて、然も種牛も肉牛共に最高位の栄冠を獲得し、県民として同慶に堪えないところであります。

即ち、本共進会の開催は、既にご案内のとおり、従来の共進会と全く異り、凡てのやり方が合理的で、例えば遺伝的基礎調査はもちろん、科学的に発育の速進を目的として目標を定め、しかも飼料の利用性を重視して、若令肥育の期間を短縮する等、なお肉牛においては、屠殺、解体して、枝肉の歩溜り、肉質の良否に至るまで、凡て和牛一代に渉る合理的な審査を行う等、詳細を極めたものであります。特に各出品者よりは、各々飼養日誌の記載や営農記録（これは審査の対照とせず）を取纏め、今後の新しき和牛の経済的飼養の貴重な資料とする等、和牛の利

用目的の転換の為の最も合理的共進会で、文字どおり画期的な方法であったといわねばなりません。

既に数年以前より、登録協会においては、和牛の大減少によって、我が国の食肉事情の逼迫することを予想すると、同時農業経営事情の刺戟され、早急に役利用から肉利用への飼養目的の転換を計る必要を痛感して「和牛維新」を提唱するに至ったのであります。その為に登録規程の改正や、審査方法の改革等を実施して、着々実績を挙げつつある訳でありますけれども、未だ一般への徹底を欠き十分なる効果を挙げ得ざりしものの、最近の食肉事情の逼迫は、著しく和牛維新の早期徹底を期するの要を痛感し、その第一回を、和牛の主産地たる中国地方をブロックとして、当岡山市にて開催されたのでありますから、和牛界にとっては、真に急務中の急務として、協力の熱意を注いだもので、我が岡山の出品が好成績を収めた事は洵に宜なる哉の感を深くするものであります。感激に堪えないところであります。

特に褒賞授与式の際、羽部会長は岡山の出品の優秀であった事に関し

新維牛和

て、特に指摘して賞讃すると共に、和牛の肉利用の主目的たる事実が、斯くも立派に為し遂げ得られた事に對し、主催の立場から惜みなく異例の讃辞となつたものと洞察致した次第であります。私は、この賞讃の光榮に對して和牛人としての面目を感激すると共に、更に実績を噛みしめ、徒らに感激に酔う事によって、和牛維新の大目標を忘れるが如き事のなきよう反省の必要を痛感致した次第でありました。

要は今後にある事でありまして今回の共進会の成績は従来の共進会におけると同様、各出品者の普段の努力に俟つところのもので、当然といわざるを得ない感激は、もちろん結構であります。この事は従来の共進会におけると同様であつて、決して新味のあるものではなく、むしろ会長が閉式の際の式辞において、岡山県を指摘して賞讃されたる事実にある事を重視するものであります。それは何か、即ち岡山県の成績として特筆大筆に価するものは種牛、肉牛とも最高の榮譽に輝き、その他の出品にしても、凡て最高の榮譽に輝く事こそ、この新しき共進会の庄

巻として賞讃に値すると思う、という事であった。この事実は要するところ、本県出品より考察する場合、最初の成績はあまりよくなかつたにもかかわらず、最終段階において斯くも立派であつたという事実より、我が和牛の持つ産肉能力が、決して外国肉用種に劣るものでなく、和牛の経済的転換の達成が実現可能である事を明かに実証し得た事実、この実績は洵に尊く、本会開催の目的もそこにあつた事を思う時、思わず讚辞となつたものと受け取らざるを得

ないのであります。我とわれの事実を深く反省し、近く発表のあるべき各データの研究調査によつて、今後一層の努力により和牛維新の達成に邁進し、今回の榮譽を無に陥せざる様すべき事を強調したいと思ひます。

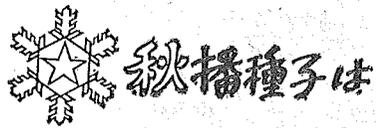
この和牛維新の実現こそ、和牛の今後の途であり、そして増産の方途も生れるであろう事を考える時、関係者の一層の奮起を祈つて止みませ

十二月号目次

和牛維新を顧みて	藤井英一郎
岡山県の家畜飼養の概況	畜産課 2
アルペン酪農を聞いて (一)	花尾省治 4
全共を顧みて (座談会)	6
岡山県の皆さん	ありがとう
審査報告	11
産肉能力検定区出品の結果から 渡辺 滋樹	14
◇酪試	16
晩秋から冬の草地管理	17
◇鶏試	17
コクシの問題点と対策	18
◇和試	18
和牛の放牧と牛舎の比較	20
養鶏農協だより	20

◆ 発行予告 ◆

◆ 新肉用牛指標 ◆
 予定完備 一五〇円
 (送料四五円)



秋播種子は

マークが保証する

雪印のたね

と御指定下さい

雪印種苗株式会社

岡山営業所 岡山市巖井1482-1
 TEL. ②0395. ②0488

岡山県の家畜飼養の概況

☆☆

☆☆

(40年度 農林省統計調査部調査結果)

県畜産課より

(一)

3 養豚

四十一年二月現在の豚飼養戸数は四〇五〇戸であり飼養頭数は三万八千頭に達した。これを前年同期と比較すると戸数は七%、頭数は三%とやゝ増加している。豚の飼養頭数は過去、豚価の騰落に影響されて増減をくり返しながらも長期的には増勢を示していたが、四十年一年間は比較的豚価が高値で経過したため過去の最高頭数を示した。

豚の飼養戸数を経営形態別にみると耕作農家が大部分で非耕作飼養者は一八六戸、協業経営、その他の事業体がともに

二〇経営体前後となっている。これを飼養規模別にみると多頭飼養の割合が高いのは協業経営その他の事業体であり、肥育豚三〇頭以上を飼養するものが多い。

豚飼養農家(耕作農家)について肥育豚飼養規模別にみると一〇頭未満が約九四%の多くを占め、多頭化が進展している中にあつてもいまだ少頭数飼養農家が依然として多い。しかし前年対比で見ると、三〇頭未満の規模のものは減少しているが三〇頭以上の規模のものは増加している。このなかにあつてとくに三〇〜四九頭のもの増加が目立っている。

4 養鶏

(1) 採卵鶏

採卵鶏飼養戸数は年々減少しており、四十一年二月一日現在の飼養戸数は八万六千戸で前年より一〇%減少した。飼養羽数は戸数の減少にもかかわらず年々増加していたが、三十九年夏期以降一年にわたる低卵価の影響がようやくあらわれ前年の一一%減、四五九万羽となった。

採卵鶏のうち、ほとんどを占める食用卵採取を目的とする食用採卵鶏飼養戸数は八万六千戸で、成鶏めす羽数は四四〇万羽となった。

経営形態別の飼養戸数、羽数を四十年十二月調査の結果から見ると、食用採卵飼養戸数は総数で八万二千戸、成鶏めす羽数三二六万羽で、このうち耕作農家は戸数では全体の九九%、八万一千戸と圧倒的多数を占めるが、その飼養する成鶏めす羽数は九〇%にとどまった。

耕作農家以外の飼養者は数こそ少ないが、飼養規模は大きく、一戸当り成鶏めす羽数は協業経営の二八三羽、その他の事業体三三三三羽と耕作農家の三五羽に比し、比較にならない多羽数飼養となっている。

肥育豚規模別飼養農家数(耕作農家)

		肥育豚頭数規模								肥育豚なし	計	
		1~2	3~4	5~9	10~19	20~29	30~49	50~99	100以上			
実数	39.12	780	410	440	210	30	13	21	15	1,920	1,640	3,560
	40.12	760	300	210	100	10	72	21	12	1,500	2,070	3,570
構成比	39.12	21.9	11.5	12.4	5.9	0.8	0.4	0.6	0.4	53.9	46.1	100.0
	40.12	21.3	8.4	5.9	2.8	0.3	2.0	0.6	0.6	41.9	58.1	100.0

採卵鶏飼養戸数、羽数(41年2月1日現在)

		採卵鶏		うち 食卵鶏						
		飼養戸数	飼養羽数	飼養戸数			総飼養羽数	成鶏めす羽数		1戸当り成鶏めす羽数
				実数	前年対比	普及率		実数	前年対比	
岡山	40.2	95.3	5,044	95.2	—	58.2	4,856	3,656	—	38.4
	41.2	86.4	4,590	86.4	9.05	53.3	4,400	3,250	88.9	37.7
全国	40.2	3,243	120,197	3,227	—	55.4	114,222	88,090	—	27.3
	41.2	2,767	114,500	2,753	85.3	48.6	109,100	81,240	92.2	29.5

経営形態別食卵鶏飼養戸数、成鶏羽数(40年12月)

	飼養戸数		成鶏めす羽数		1戸当り成鶏めす羽数	成鶏めす羽数規模別	
	実数	割合	実数	割合		1,000羽未満	1,000羽以上
総数	81,670	100.0	3,160	100.0	39	81,093	572
耕作農家	81,180	99.4	2,830	89.5	35	80,688	492
非耕作飼養者	411	0.5	104	3.3	25	378	33
協業経営	44	0.1	126	4.0	32,863	11	33
その他の事業体	30	0.0	100	3.2	3,333	16	14

豚飼養戸数と飼養頭数

		飼養戸数		飼養頭数		子取り用めす飼養戸数		子取り用めす飼養頭数		飼養農家1戸当り飼養頭数
		実数	前年対比	実数	前年対比	実数	前年対比	実数	前年対比	
岡山	40年2月	3,800	94.0	36,830	136.0	—	—	6,770	—	9.7
	41年2月	4,050	106.6	37,930	103.0	2,710	—	6,500	96.0	9.4
全国	40年2月	701,560	99.0	3,975,960	115.0	—	—	535,000	—	5.7
	40年2月	714,300	101.8	5,160,030	129.8	305,980	—	697,230	130.3	7.2

経営形態別豚飼養戸数(40年12月)

	飼養戸数		飼養頭数		1戸当り平均頭数	肥育豚規模別戸数	
	実数	割合	実数	割合		30頭未満	30頭以上
総数	3,800	100.0	34,200	100.0	9.0	3,640	153
耕作農家	3,570	93.9	26,880	78.3	7.5	3,450	115
非耕作農家	189	5.0	1,850	5.4	9.8	171	18
協業経営	22	0.6	3,120	9.1	142.	7	15
その他の事業体	17	0.5	2,500	7.2	147.0	12	5

日野水先生

(その二)

アルペン酪農の

聞いてを

岡山県
常勤畜産
コンサルタント

花尾省治

草種はどんなものを播くか

まくべき草の種類であるが、マメ科と禾本科に別れる。ところがこのマメ科と禾本科の割合は、これまでマメ科三に禾本科七の割合にする指導がなされている。しかし放牧草地の場合は、マメ科三割の比率は多過ぎる。ラジノをこれだけ混ぜるとマメ科が増え禾本科を圧倒することになり、牛を放牧すると鼓脹症をおこし悪くすれば牛を殺すこととなる。養分からしても蛋白過剰で、卵巣異常、繁殖障害をおこし、受胎困難となる。そこで混播の場合、マメ科の割合は一・五割以上にはならない。

これをに入れて失敗することが多い。ヨーロッパでは放牧地にラジノを入れていない。赤クローバー、普通白クローバー、パーズフトトレフォイル(高冷地山岳地帯の重要マメ科)の外、ルーサンが蒔かれていてのを見受ける。牛の健康上、草地の生産力を考えると赤と白クローバーがよい。

夏枯れのひどいのに対してはルーサンがよい。ルーサンは夏やけに非常に強い草でアルカリ性の土壌でPH七・五から

夏枯れ対策

暖地の夏枯れ対策であるが、野芝を利用することがよい。コライ芝で四〇センチくらい伸びる。日本の芝は傾斜地に蒔くと非常によい。高知県においても傾斜地に用いているが、雨の多い地帯でもあり、市の糞尿をこれにかけすばらしいものに育っている。

夏枯れは、イタリヤン等飼料作物を刈って運搬、給与する方法は、労力的にも栄養的にも不利である。ということ

その他にローズグラス、バヒヤグラス等であるが、南方型としてはローズグラス

草の利用方法

とうもろこし、イタリヤン等飼料作物を刈って運搬、給与する方法は、労力的にも栄養的にも不利である。ということ

山梨県で農家から二キロ以上も離れたところに牧草地をつくったが、山道の悪いところで足遠くなり、年一度しか刈取られず、三年もすれば荒廃して元の姿になっちゃった。山の草地利用は、毎日牛を連れてゆける家の近くに草地をもつことである。

スイス、ドイツでは冬の間は、基地農場に繋かれ、春になると共同草地の山にあげられ、少数人数で共同管理を行うのである。搾乳は山で行い、月一回の乳量検定を行う。山には酪農組合、市町村の

チーズ工場が設けられ、チーズがつくられている。最近ではビニールパイプによって山から谷間の工場に送乳し加工を行っている。

アルペン方式の、山の共同草地利用の酪農を行えば水田五〇〇六〇アールでも一〇頭くらいが飼えるし、労力の問題も解決される。山に放牧すれば他の作物栽培も安心してつくられるし、また冬期飼料の準備も行える。

刈取方式では多頭飼養がむづかしい。牛を山に放すことは牛の生理上からも極めてよい。元来乳牛は暑さに弱いもので牛の体重五〇〇六〇〇キロの身体から発生する熱を消散させることが大切で、涼しい気温が必要である。気温二五度以上になると乳量は減ってくるし、種付は困難、消化障害もおきる。山に牛をあげる

以上アルペン酪農についてお話ししたが私は次のことを申したい。それは農民の政治運動である。やれでなく、考えてもらいたい。米価であるが日本国中が苦しんでいる。国民生活で一番大切な食糧をつくることは農民の誇りであり、最も尊い仕事でもある。これが農民の心を支えている。政治運動で生産米価をせりあげると、食管特別会計の赤字補てんは一、二〇〇億に達する。

牛の種類を考えねばならない

日本では黒牛(和牛)と乳牛とが飼われているが、ヨーロッパでは殆んど肉用専用種とか、ホルスタイン、ジャージーの乳用専用の牛が飼われていない。アルプスの山で飼われているものは乳肉兼用種で、例えばブラウンスイスとかシンメータールで牝牛は乳を搾り、牡牛は肉用に飼われる。日本では牡牛は生れると屠殺されてソーセージ原料に向けられてい

上によい。そこで夏でも草地がよいと一日一八、七五〇キロ(二斗)の牛乳が搾

れるので、ぜひこの利用を奨めたい。

る。ジャージー牝牛の育成は引きあわなしいし、ホルスタインの牝牛は育成がむづかしい。それに引きかえブラウンスイスの牝牛育成は肉用タイプで、草で肉がつく。黒牛は山に放牧して一日五〇〇六〇〇グラムの増体であるのにブラウンスイスでは九〇〇グラム一キロの肉がつくことから、その経済性の違いがはっきりわかる。

もって自家用車に乗り豊かな生活をしている。日本はヨーロッパよりすぐれた諸条件に恵れており、乳価も高いのにもうけが少ないのは何故か。頭をつかい努力のよちがあると思う。豊かな乳の流れる里が眠っている。日本には未開発の山野が残されている。良質で安い牛乳を出し、それで豊かな暮らしができる経営を考ねばならない。「岡山」とは岡のようによい山の県であり、即ち酪農県であるので一層の精進を願う。

(文責・筆者にある)

牛の繁殖障害の防除に活躍する 武田の動物薬品

- 新低受胎牛治療剤.....動物用 **ウルセリン**
- 新子宮内膜炎治療剤.....動物用 **プレザG**
- 合成樹脂製注入器.....動物用 **子宮内薬液注入器**

武田薬品工業株式会社食品事業部・畜産部

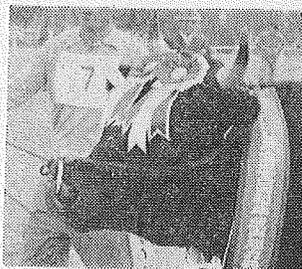


第1回全国和牛産肉能力共進会を願ひて

特別座談会



左から藤井、渡辺明、渡辺滋、佐野の各氏



千原〓今回の全共を願ひて、主催者側としてその成果をどう考えているか。
藤井〓岡山県は目を見晴らすような成績をおさめたが、こうまで素晴らしい結果が出るとは予想していなかった。
私共が考えたことは、今回の共進会は産肉能力主体という画期的な共進会に変わったのだから、岡山県の真価を発揮するにはこの共進会をおいて他にないと考えた。幸いに、出品者、関係者皆さんの努力によって素晴らしい共進会が開催され感謝しておる。今後は、この熱意を続けてゆくことが大切である。

協力が実を
結んで
大成功

千原〓渡辺（課長補佐）さん、実際の担当者として日夜苦勞されましたが、渡辺明〓会場を引受けた岡山県として、和牛登録協会岡山県支部、県経済連、県和牛試験場等の一致した協力を得て、効果のある共進会が開かれたことを喜んでおる。
今共進会は昭和三十九年十月八日に決

◆出席者◆

渡辺明喜
（県畜産課課長補佐）

渡辺滋樹
（県和牛試験場長）

藤井英一郎
（全国和牛登録協会
岡山県支部長）

佐野正民
（県経済連畜産部長）

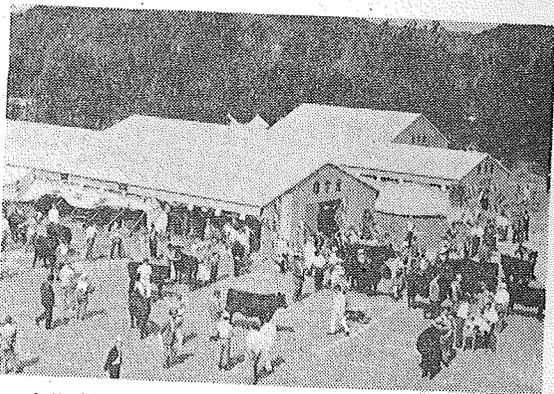
千原英之
（司会）
（県畜産会普及課長）

うのは、骨格などの基礎的条件の優れている伝統ある岡山牛に、良い環境を与えて素質を遺憾なく発揮させたからだ。

藤井〓我々は永年、しっかりとした側尺によって登録を進めてきたが、それが今共進会で間違っていたことが証明された。それに岡山牛は他県に比べて品としまりがよい。

渡辺滋〓無角はも、尻の状態はよいが肉質は悪いといわれていたが、今回割ってみて驚いた。サンが十分入っている。今後は和牛を完全なミートタイプに改良しなければだめだ。素質のある牛でも飼いが悪いとサンも何も入らない。岡山牛は素質がよいのだから、十分に飼いだむことだ。肥育にはやはり麦が一番よい。

渡辺明〓現在和牛の斉一化が強く叫ばれている。今後の改良は鎖国的ではだめで、広い立場で種雄牛の選定なり精液の交流を進めて、今回出品上位入賞牛のよゆうな牛に近付ける必要がある。この点、岡山県ほど広く活潑に改良を進めている県はないと思う。



全共のために設計された組立て式の軽量鉄骨牛舎。
あとは和牛センターに移転される。

飼料効率、歩留、肉質、産肉性を細かに検討した立体的な共進会であった。出品牛は全ての数値で標準をはるかに越えており、和牛でも環境をよくしてゆけばこゝまで育つんだということがはっきりと裏付けされた。今後の和牛改良に一つの大きな示唆を与えている。
第一次審査の時は岡山の牛は悪かった。それが最終審査で好成绩を得たとい

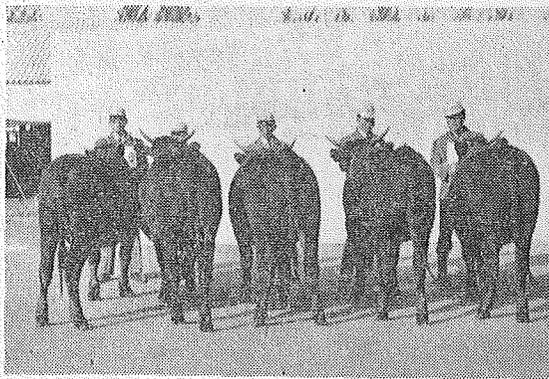
はスタンドを設け、審査のあり方、更に詳しくは先生方にこの牛はどういう目的でどういうふうな飼養されたその結果という型になったんだ、という解説を克明に行っていたことが参観者の方に非常に評判がよかった。和牛参考館も人気があった。
佐野〓今までの共進会を打破したもので県当局の苦勞は大変だったと思う。岡山県が立派な成績をおさめた裏には私は三つのかくれた要因があると思う。その一つは、岡山県の和牛界の先輩が、早くからかくあるべき方向を見定めて改良を続けてきたこと、第二は何をするにもそだだが組織力の問題、最後は、出品牛をとりまく関係者、つまり未端の協力体制が大ききものをいいたと思う。私は将来の対策を考えたい場合、この点を十分検討すれば、自ずと道が開けると思う。

肉用牛としての和牛の真価に自信

千原〓今共進会の目的は、和牛の肉牛としての可能性を追求することで、順位を競うものではなかったが、岡山県がよくこの主旨を理解して万全の努力をもって肉牛を作った結果が表われたのであってこの点本部も満腹の感謝をしていたが、

和牛が立派な肉牛であるという自信ももてたことは事実のようですね。
渡辺滋〓私は産肉能力検定牛の出品者でもあった関係上、全期間を通じてつづさに観察してきた。今共進会は、体型資質という表現型のみでなく、発育、早熟性

よく喰う牛を作る



和牛試験場から出品された産肉能力検定牛。明石の子牛で大変よく揃っているが、おしくも一等一席をのがした。

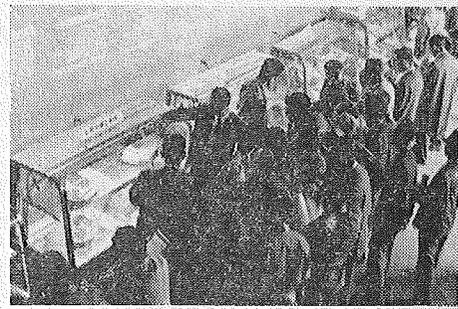
思う。
藤井〓〓で勝って兜の緒を締めよである。その点臈が種雄牛を和牛センターに集中管理しているのはいいことだ。
渡辺明〓今回の成績によって岡山県は非常に責任が重くなった。あの成績は、肉牛という規格をよく理解し、農家なり技術者が一体となって研究し努力したことによって現われた。今後は、あの成績に恥しくないように、組織的に対策を進めて、全県下の牛を斉一化しなければという大問題があり、大きな責任を課せられたわけだ。
千原〓場長、出品者として何か。
渡辺滋〓和牛試験場から産肉能力検定牛を出品し、その管理には夜昼となく十二分に気を配り万全を期した。明石号の子で体型、資質の表現型は非常に良かったが、割ってみて案外サシが入っていなかった。これは最後の段階でちょっと喰いが落ちたからではないかと思う。もう一飼い必要だったという感じだ。
これから考えることは、肉牛ではよく喰うということが一番のポイントになってくる。一般の人は角がいくとか、歩き方がいくとか細かなことをいうが、今までの観念を捨て、この点を考えてほしい。

佐野〓そういう点からみても、私は総合畜連の時代から和牛子牛規格向上運動を

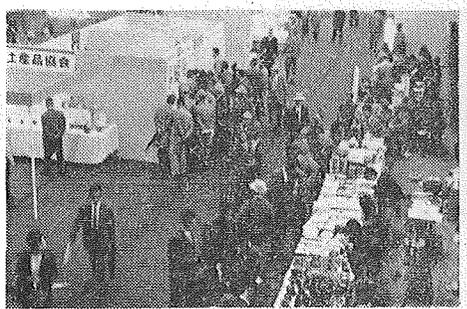
進めているが、これの間接的効果も大きなものがあったと思う。今後より一層強くおし進める考えだ。これが価格にも、経済性にもつながってくる。
藤井〓皆さんがおっしゃったように、この共進会で方向付けができたのであるから、今後はいかに飼うかということが一番大切になってきたわけだ。

成功した 解説つき 審査

千原〓施設と運営面について感想を。渡辺さんは当事者として色々苦労されたこと



肉牛区の枝肉展示



体育館内の展示場風景

とと思うが。
渡辺明〓これだけ大きな共進会であるから金の問題もあったが、各方面から気持よく協賛していただき、また関係団体からは引受けたからにはやろうということでも全面的な協力を得て、あの運動公園という環境の中で開催された。こういう共進会を開くとかと不平不満がでるものであるが、今回は各県に喜んでもらえた。この会場が岡山にもってこられた理由の一つに、岡山県には公明な取引きをしている県営食肉市場があった。そしてその荷受会社に大変協力をいただいた。四三頭の肉牛を普通に取引すれば三〇数万円が会社の利益になるが、これを全額無料として協賛いただいた。
運営面では会期四日間短かすぎないか心配していた。肉牛はと殺、解体、冷凍、審査、セリをしなければならぬ

ら、審査だけで終わって一般に勉強してもらう時間が無いのではないかと心配していた。幸い心配した程のこともなく、全く予想以上スムーズに運び、皆さんの協力を感謝している。
千原〓本部の人が一番心配していたのは牛肉のと殺の時間的運用だった。その点岡山県人の全面的協力に大変感謝している。
渡辺明〓整備された会場と、市場職員の協力がなかったらできなかっただろう。
佐野〓県の努力によってこそ成功した会であった。特に第二審査団を設けて解りやすく解説したことは、一番の成果だったと思う。欲をいえば枝肉を第一会場に運んで展示公表してほしい。
千原〓ほんとにユーモアたっぷり解り易い解説で一般にサービスタしたことは、共進会の新しいやり方を明示した。
渡辺明〓何としても全国からの参観者の

方に十分勉強していただき、画期的な内容をもった今共進会を体得してもらいたかった。
それにこの和牛の転換期に常陸宮夫妻に初めてご来岡いただいたが、時間を延長してまでも観覧され、今後の和牛改良に一段とはげみになる。
渡辺滋〓聞くところによると、開会式のお言葉であるが、殿下自ら作文され、これでよいかと羽部会長にきかれたそうである。専門用語もふんだんに使われ、殿下が和牛についていかに理解が深いかわかる。
渡辺滋〓この共進会を線香花火に終らせないで、いい点を県共にも取入れたい。
藤井〓県共でも若い牛を集め、ある程度牛を揃えることが必要だ。
佐野〓すでに酪農部門でも今回の方法を取入れる声がでている。

出品人の宿と牛舎を分離

資料展示・出品目録の内容は抜本的

千原〓課長補佐が強張された牛舎の解放ですが、つまり牛舎と出品人の宿舎は意識的に分けたのか。
渡辺明〓第一回の連絡委員会からの問題であって、共進会の新しい方法ということはどうしてもやりたかった。他県から

は岡山がかってに公園でやるから悪いので、分離したら出品者から苦情が出ると文句をいわれた。しかし、可愛い牛と離れられずに一緒に寝た人もあったようだが食事は食堂でとるようお願いしたが、従来よりずっと清潔な環境が



運動公園内の1画を審査場にして行われた。

スタンドが設けられ、大勢の人が見物している。
て、研究の実績とか将来の和牛像を載せて下さるようお願いした。
渡辺滋〓資料展示もよかった。和牛百年の歩みなど、昔の牛と今の牛の違いが一目で解り、貴重なデータで参考になった。
渡辺明〓中央畜産会が全てを取まて、テキストとして出して下さることになり喜んでる。
佐野〓それに今回の記録を早くまとめ、報告書を関係に示す必要がある。
千原〓色々な面でよい環境で行われたわけだが、一般の参観者から見た場合、会場、施設の感想はどうであったらうか。
佐野〓雰囲気としてはよかったが、場所をもう少し収縮するほうがよかった。
千原〓全共ということになればある程度の場所も必要であるが、我々も写真をとるのに走り回り、足が棒になった。
藤井〓その点からみて、開期をもう一日くらい伸ばしたい。
渡辺滋〓前夜祭の感じもよかった。岡山県の企画はすばらしい。
藤井〓白石踊りなどのアトラクションもよかった。
千原〓十六日の日曜日には特に子供連れのお母さん達が目についた。関係者以外の方が行楽のついでに楽しんでた。
佐野〓全ての面に新しい企画、バラエテ

「I」に富んだ企画が徹底されていた。
千原「佐野さん苦言はないか。」
佐野「今回の地元負担金一千円という共進会の在り方は、今後どこの県が引受けられるにしても問題として出てくる。難しい。」

これを契期に一層の 和牛改良を進めたい

千原「全共が岡山に残っていた話題は多いが、最後に一言づつ。
渡辺滋「和牛の転換期に画期的な共進

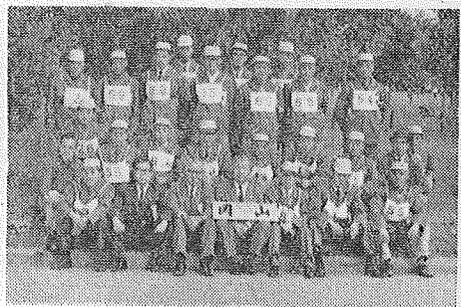


常陸宮ご夫妻は時間を延長されて、一頭一頭についてくわしくたずねられ立派な牛にたいへん関心を示された。

が改善の要がある。
場長にお願いしたいが、今回の施設は和牛センターに移されるのだが、あれを全共記念牛舎として名前を残してほしい。

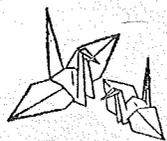
会、しかも第一回が岡山県で開かれ、効果的であった。これを契機に、一層計画的に和牛改良を進めたい。岡山の牛は体型はすばらしいから、今後は飼養管理技術、経営に力を入れ、ば増々伸びるだろう。

佐野「先輩諸兄の残した業績を更に進めてゆきたい。その方法としては、官民一体となつてのムード作りが大切だ。それと県は、産肉能力検定制度を管易化して早くやってほしい。
藤井「牛を飼うような人は封建意識が強くて、昔のことばかり考えているから、今回の成果をもとに産肉性を高める新しい方法を徹底させる必要があるだ。
渡辺明「運営に色々当ってきたが関係機関の協力により、人畜無事



ずらり並んだ岡山県出品者

故で盛会に終ったことを感謝している。皆さんがいわれるように、問題は成績をいかに今後に反映させるかだ。今回のように関係機関の協力を得て、組織力によって未端への徹底を行い、早く和牛の振興を図りたい気持ちでいっぱいだ。
佐部「課長補佐、我々も協力をするから、知事の祝事を無にしないよう、県当局にもお願いする。
千原「色々長い間ありがとうございました。」



岡山県の皆さん ありがとうございます

第一回全国和牛産肉能力共進会事務局局長
全国和牛登録協会専務理事 石原盛衛

和牛の農用牛的性格から蟬脱して、肉に重きをおいたものに転換しなければならなくなつた時代に対応して、技術的にまた育種的に和牛の性格転換が急務とされておりますとき、この「和牛維新」の歩を一層速めて、効果あらしめるため、今回和牛の産肉能力共進会の開催を計画しましたが、昨年十二月一日から十ヶ月以上に及ぶ画期的共進会も去る十月十七日の岡山会場の閉会をもって盛会裏に所期の目的を十分に達成し無事終了いたしました。当共進会の推進役としてお世話いたしました一人として満腹の喜びを禁じ得ない次第であります。

わけても最終審査の会場をお引受下さつた岡山県の皆さんの官民一体となつたご協力振りには、当初若干の危惧の念がありましただけに大成功に終了をいたしました今、感涙の気持で一杯でございます。会場施設、運行、出品牛の育成等、万般に亘り、今回の共進会の目的をよく理解下さり、全く順調に進めて下さつたことを衷心より厚くお礼申しあげます。万感の思いでこの共進会の成果を顧りみ感想をのべて戴くならば、和牛の隘路を打破するためには外国種の導入を強調し、在来種である和牛に疑問をもつていた人も若干おりましたが、こうした

人々をも含めて和牛というものが見直され、和牛に対する新しい意識を持つようになったということが今共進会の最大の成果であつたと思ひます。役用牛から肉用牛への転換が観念的に論じられる嫌いが強かつたのですが、現実和牛の能力というものを目でみ、手に触れて感じたことが和牛というものを再認識させ、和牛というものに自信をもたせたということとで大いに意義があつたと思つております。

また共進会のあり方、産肉能力に対する感じ方については、ややもすると今までの抽象的に論じられておりましたが、一年間の飼育過程を記入させ、能力というものを数字ではっきり出せたということは和牛改良の面でも、共進会のあり方という面でも画期的なものであつたと自負するものであります。こうした成績は、和牛改良に最も大切である審査標準の改正、審査法の変更、登録規程の改正に参考とするだけでなく、和牛の飼育管理の技術指導や改善に役立たせることが出来るという点で良いことでありました。具体的な会場設営及び進行についても展示会場が実によかつたと思ひます。あれをみた人が、これだけを見ただけでも和牛を作るということのほげみになつた

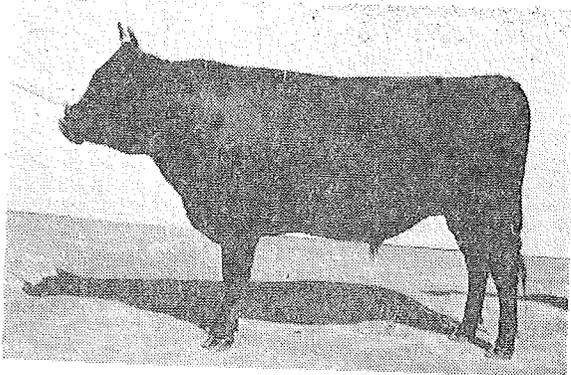
審査報告

(抜粋)

第一回、第二回の審査を通じて感ぜられる点は、種牛では牛の有する産肉性に関する遺伝子を十分發揮させる育成方法を考究する必要がある。従来体の緊実性のみを、ねらう育成方法に捉われなことが重要。肉牛では素牛の選定に問題点があつた。

一、第一部種牛第一類若牛第一区黒毛和種雄

第十九横氏号



二、第一部種牛第一類若牛第二区黒毛和種雌

出品十四頭。いずれも發育、均称、体積がすぐれ、体深もあつた。背腰の中、腿の形状も良く、肉用型に進行している。なかには中軀の張りに乏しく、全体

“酪農・養鶏機ならおまかせ下さい”

農業機械ならなんでも揃う店

岡山市柳町一丁目一の一七

小六農機株式会社

TEL 岡山@0307(代) 岡山市外専用 110

営業所 高梁・金川・児島

でしょう。牛舎を開放にし、一般參觀者でも自由に中が見られるようにした点、また、牛舎と出品人宿舎とを別にして牛舎内を清けつにした点など従来の共進會と比べて工夫のあとがあり共進會のあり方として一つのエポックとなりました。審査のやり方も、解説を加えた分り易いものでありましたし、出品目録も多くの人から褒められました。肉牛の審査のやり方も、養育と生体と枝肉を関連して出来たこと、またこれら審査にあたつて

京都大学農学部教授
第一回全国和牛
産肉能力共進會
審査長 上坂章次

本共進會の第一の目的は役用牛として和牛に、その遺伝因子がどの程度あるかをみることであった。和牛の研究者として、また本共進會の審査長として審査にあつた結果、和牛に予期した以上の能力があることが分つて、こんなに嬉しいことはありません。今後これを足がかりに肉用牛としての和牛の育種改良に自信をもつて取組んでもよいと確信出来ました。

モモがよくなった

徳島県農業改良専門技術員

三代伍朗

徳島県からはるばるやってきたのだがよい牛をみせてもらつて本当に來てよかつたと思う。多くの生産者が参加し、その一つの表れとしての岡山会場であつたので、意義深いものであつた。今まで和牛というものに莫然としたものもあつていたが端的に優秀性を目に見せてくれ、和牛に自信をもたせてくれたこと、今回の共進會が個体の優劣のみでなく経

今後の普及に万全を

九紅飼料畜産株式会社岡山営業所

原田歳男

今回の全国和牛産肉能力共進會に參考資料館の出品者として参加させていただいて、全期間つぶさに見せてもらひ、まことに立派な牛を見る事が出来てこんなに嬉しいことはなかつた。
職業柄、飼料の質の良否が牛の成長に大きな影響を及ぼすことを加実に立証され、肉の生産者の日頃の管理が大切であることを痛感した。
今共進會の感想は、繰り返しは避けたいが、特に強く感じたことは、先ず、岡山に牛を処理出来るト場のあることが、いかに肉生産過程の近代化に役立っているかということであつた。生体取引でいくのと、枝肉にしてから取引するということの違いが、肉用牛経営にとって、また、生産者から消費者への流通組織の近代化にとって、これ程大きな効力を發揮するものかということである。このことが今共進會を成功させた所以であり、岡

市場の方がよく協力をしてくれたこと、感謝にたえませぬ。岡山だからこそ出来たのだと思います。

終りに我々本部事務局のいたらざる点があつたのにも拘らず、地元関係者の物心両面に亘つてご協力をいただいたことに伏身感謝の意を表したいと思ひます。

岡山県のみなさんありがとうございます
(十月十七日談)

審査を終了して印象をのべるならば、解説つきの審査が人気があり、又参考牛を出品させその説明をつけたのがよかつたと思ひました。従来の共進會の形を打破する画期的なものとして、新らしいビジョンを確立したものと喜んでおります。特に、枝肉の審査で肉牛の生産者が枝肉を見るチャンスがあつたことがよかつたと思ひます。また無角牛を知らない人もいたのでそれだけの意義は深かつたと思ひます。

(十月十七日談)

濟性も加味したものであつたこと、これからの共進會のいき方を示した画期的なものであつたこと、等々ぶものが多くてありがたかつた。特にモモがよくあつたことを強く印象づけられた。これらから得たものを、今後の新らしい管理技術の開拓と普及に努めねばならないと深く感じましたのであつた(談)

山牛の成績がよかつたという結果を生んだのだと言つてよいのではなからうか。幸にして和牛の産肉能力が、十二分に發揮し得たことを、いささかでもこの道に關係している者として大い喜びとした。しかしこの共進會の成果として得られた数字的データを、外国のそれと比較し、優越性を誇るならば一寸行きすぎがあるのではないかと若干危惧の念ももつた。米國あたりの統計数値は多数の經濟牛を対象としたもので特に優れたものだけからとつた数字ではない。それと今回の和牛の産肉能力の成果をダイレクトに比較するならば感違ひを喚起することにもなるであらう。今回の成績が、一般の經濟牛を対象としたもの、集計結果として誇示出来るように、今後の育種改良と増殖に、組織力の強化をもつて、万全が期せられるよう祈りたいと思ふ。

の充実感のないものもみられ、体下線の平直、腿の形と充実度についてまだ十分なものが見受けられた。

三、第一部 種牛 第二類 育種登録・高等登録

黒毛和種
無角和種

この区は育種登録か高等登録の母牛一頭とその娘牛二頭を一組として出品し、母牛の強い遺伝力を見ると共に、母系、父系共に優良な等統の代表牛同志の交配の結果を展示するものである。

出品は六頭、計十八頭。母牛は年令的にかなり進んでいるにも拘らず、いづれも体積にとみ産肉性の高い形質を備えたものが多く、若々しく感じられた。娘牛二頭は母牛の形質をよく伝し、父牛の美点も強く現している。しかし、母牛は非常に優秀なものであるにも拘らず、娘牛のうち一頭が母牛に比して幾分見劣りするものがあつた。

四、第二部 肉牛 第一類 増体記録

黒毛和種
無角和種

出品六頭(無角一頭)。共進會開始時(40年12月3日)から最終審査時(41年10月14日)までの三十五日間の一日平均増体量と、最終審査時の体重を生後日令で割つたもの(日令体重比)との平均増

を算出し、増体の大小を審査するものである。

六頭の日平均増体量は一・〇五八kg(〇・九〇九〜一・一六八kg)、日令体重比は一・〇六六kg(〇・九八一〜一・一六九kg)で、両者の平均は一・〇六二(〇・九五四〜一・一六九kg)であり、体重は六〇二・〇kg(五五四・二〜六六〇・三kg)であつた。出品牛はいづれも極めてすぐれた増体能力を示していた。

五、第二部 肉牛 第二類 去勢肉牛 第一区

黒毛和種
無角和種

黒毛八頭、無角五頭、計十三頭。審査は生体と枝肉に分け、生体四、枝肉六の割合で審査した。出品牛の月令は平均二三・四ヶ月、体重六〇〇・七kg(五六〇〜六七〇kg)、体高一二八・三cm(一二三・六〜一三四・〇cm)、胸囲二〇七・六cm(二〇〇・二〜二五五cm)、管圍一八・三cm(一七・四〜一九・一cm)で、若い月令でも満肉に近いものが多かつた。しかし、生体の場合、後軀の形状とくに腿の形の悪いもの、被毛のや、粗いものもみられた。

枝肉は、歩留り平均六四・五八%(六二・七三〜六六・七〇%)で、半丸重量は全て一三〇kg以上で極上に格付けされるものばかりであつた。枝肉外観も全部

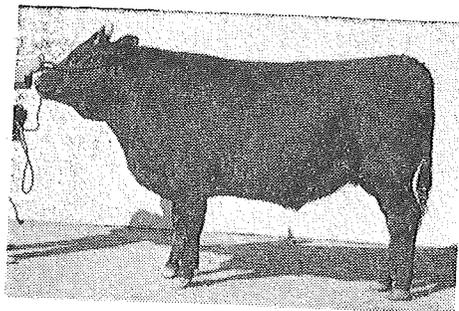
六、第二部 肉牛 第三類 産肉能力検定

黒毛和種
無角和種

この区は各県の種畜場、畜産試験場からの出品で、各県一組五頭で計六組三〇頭であつた。生体と枝肉に分け、両者を総合して判定をつけた。

生体審査では一日当り増体量、最終体重、体型資質について調べ、増体量は他の項目の二倍のウェイトを持たせる。結果は無角が体重、体型共によく揃つており、一日増体量平均〇・九五kg、体重平均五一・九kgで群を抜いていた。

枝肉では、枝肉歩留りと枝肉規格について調べた。歩留りは平均六三・三%で、各組共に六二%以上を示していた。肉質、外観については各組とも目立った差異はなかつた。



西勇号



第2表 産肉能力検定区審査基準

区分 級分け	生 体 審 査			枝 肉 審 査		
	1 日 増 体	最 終 体 重	体 型 資 質	枝肉歩留	脂肪交雑	規 格
A	0.9Kg以上 0.85~0.9	AA AB	470Kg以上	A (例えば78点以上)	62%以上	極上
B	0.8~0.85 0.75~0.8	BB BC	440~470Kg	B(" 76~78点)	60~62	上
C	0.75未満	CC	440Kg未満	C(" 76点未満)	60%未満	中

第3表 体重の増加 (単位Kg)

牛 番 号	第 I 期				第 II 期				第 III 期				全 期 間 増 量 1 体
	40.11.11	12.11	41.1.10	2.9	3.11	4.10	5.10	6.9	7.9	8.8	9.7	10.7	
1	198	221	250	275	297	321	350	375	400	418	444	468	0.82
2	205	233	261	284	313	335	371	394	412	440	458	488	0.86
3	200	223	250	280	309	334	367	388	410	431	455	486	0.87
4	214	232	253	285	304	327	359	382	398	420	450	473	0.78
5	199	226	252	286	304	320	360	377	400	420	448	477	0.84

これらの成績を総合すると、一日当り平均増体量は〇・八四kg、最終体重平均四七四kgで生体の審査基準の上位の部を占め、特に五頭のこの出品が岡山会場において瞳目されたのは、体型、資質および大きさが五頭とも良く揃い、父親(第二明石号)の特色とされる均称、背腰、資質など優れた部位を良く子牛に遺伝していることである。枝肉も歩留、脂肪交雑、規格ともに概ね成績は良好であった。特に今後和牛改良上産肉性の高い種雄牛を供用していくため、これらの検定方法を行うことが必要であり、弊場においても、これを継続して行く方針である。

第4表 生 体 審 査

区分	牛番号	1	2	3	4	5	計
1 日 増 体 量		BB	AB	AB	BC	BB	A ₂ B ₇ C ₁
最 終 体 型		BB	AA	AA	CA	AA	A ₄ B ₁
体 質		AA	AA	AA	AB	AA	A ₄ B ₁

第5表 枝 肉 審 査

区分	牛番号	1	2	3	4	5	計
枝 肉 歩 留		A	A	A	A	A	A ₅
脂 肪 交 雑		CC	BA	AA	BB	AA	A ₂ B ₂ C ₁
規 格		CC	AA	AA	BB	AA	A ₃ B ₁ C ₁

第1回全国和牛産肉能力共進会

「産肉能力検定区」出品の結果から

岡山県和牛試験場長 渡 辺 滋 樹

今回行われた全共の異色ある出品の一つとして中国六県の各畜産試験場ならびに種番場から「産肉能力検定区」として出品が行われた。この目的は和牛産肉能力向上のための重要な手段として種雄牛の産肉能力の早期判定のための検定で、今後供用される種雄牛は後代検定とともに特に重要な意義を有し、且つこれを存続していく必要がある。

岡山県和牛試験場から出品された「産肉能力検定区」の出品は、当場繋養の第二明石号の産子六頭(去勢牛)の内五頭で、各頭とも同一条件(飼料の種類、給与量、管理)の下に三三〇日間検定を行い、増体、最終体重、枝肉歩留、肉質および経済性などの能力を比較検討したのであるが、幸い本県出品のものは優位に入賞した。このことは第二明石号の産肉能力が優秀であることを示すものである。

一、検定要領

(一) 供試牛

種雄牛第二明石号の産子で四〇・三・一五〜四〇・五・一四の間に産れたもので、真庭郡落合町産のもので、生後3ヶ月後に去勢したもの六頭をせり市場で購入し検定をはじめた。

(二) 検定期間

(肥育期間)

二〇日間の予備飼育を行い、昭和四十年十一月十一日〜昭和四十一年十月七日までの三三〇日間、若令肥育の形で管理し、十月十四日岡山会場に出品したのである。

(三) 飼養管理

畜舎内につき、給水は自由飲水による。運動は毎日三〇分程度行い、敷ワラは毎日取りかえたが、若令肥育であるため検定開始時に良質の乾草を十分に給与し腹容の増大とミネラルの補給に留意した。暑熱、防虫、食欲、運動、下痢等については最大な関心を払い管理した。

(四) 飼料給与法

検定期間三三〇日を第一期(一一〇)第二期(一一〇)、第三期(一一〇)に分けて、濃厚飼料は一日二回(朝夕)、粗飼料は一日三回食べるだけ与えた。

(五) 飼料内容

第1表のとおり
備考 この飼料は検定飼料の種類、配合、給与は各県共に全く同一のものである。

二、検定結果

第1表 飼料内容

種類	期別	第 I 期	第 II 期	第 III 期
大 麦		20	25	30
とうもろこし		10	15	20
フ ス		28	28	28
米 ヌ		20	15	10
大豆油粕(抽出)		20	15	10
魚 粉		1.0	1.0	1.0
食 塩		0.5	0.5	0.5
カルシウム剤		0.5	0.5	0.5
給与量(体重比)%		1.0	1.2	1.6

種雄牛第二明石号の産子六頭を昭和四十年十一月十一日から昭和四十一年十月七日まで三三〇日間検定を行い、第一回全国和牛産肉能力共進会が岡山会場で開かれた、肉牛の部門の産肉能力検定区に五頭出品し、その成績の概要は次ぎのとおり。

岡山県各畜産試験場より

酪農試験場だより → 16 P
 養鶏試験場だより → 17 P
 和牛試験場だより → 18 P

酪農試験場だより

晩秋から 冬の草地管理

秋の牧草地の管理は、暑い夏を過ぎて弱っている牧草の元気を回復させ、その生産力を強めると同時に、来春の収量を高めるための越冬力をつけてやることにねらいを持たねばなりません。

このためには、秋の草地利用が過度にならないように注意することが大切です。秋の気温は牧草の生育には最も適した時期ですが、春に比べてその生産量は少なく、他の青刈類も少ないためもあって、全般に使い過ぎになりやすくなります。秋の収量が春に比べて少ないのは、夏を越して弱っているためと、気温は適度ですが日長時間が短くなるため、然も本能的に寒い冬を越すための準備として養分の貯蔵に努めますので、自然に生産量も低下すると考えてよいでしょう。その生産量は春の約半量程度になるものです。

秋の牧草地の管理は、暑い夏を過ぎて弱っている牧草の元気を回復させ、その生産力を強めると同時に、来春の収量を高めるための越冬力をつけてやることにねらいを持たねばなりません。

よ、全体の飼料生産を計画的に行っておくことが大切です。例えば、イタリアンライグラスの秋の早播きによって晩秋に利用できるようにしておくとか、ソルゴー類の二〜三番刈りを秋に利用できるようにするとか、万全の策を講じておかねばなりません。

積雪地帯で水が豊富に得られるところでは、冬の間、水かけ栽培を行うと積雪を防ぎ、凍結も防ぎ、春先の牧草の伸び始めが早くなり、積雪した牧草地に比べて三〜四週間は早く利用することができま。但し、水は絶えずかけ流しておくことが絶対に必要です。これは水田うら

作のイタリアンライグラスにも極めて有効です。冬の間は牧草地（厩肥や乾燥鶏糞を散布したり、牧道、農道の整備、放牧地の牧柵の設置や修理などの作業も、忘れずに行ない、来春に備えておきましょう。

（栗山専門技術員）

数が一、〇〇〇以上の処では、熔燐を増量します。

この秋に新しく播いた牧草地で、イタリアンライグラスを混播してある場合はイタリアンが年内に伸び、他の草種を覆ってしまふ状態になったときは、必ず軽い放牧するか、高刈りをして、イタリアンの伸長を抑え、他の草種の生育を助けることが必要です。

また、霜が降りた日の草地の利用は、霜が十分融けてから行うようにします。一般に晩秋、初冬の牧草とくにラジノクローバーは急性鼓張症を起し易いので、採食前に乾草、ワラなどを少量与えてから給与するとか、放牧することにして下さい。

水田うら作の早播きイタリアンライグラスは、既に利用されていることと思いますが、刈り取って与えるほかに、草丈二〇〜三〇センチでロープによるけい牧もよい方法です。午前、午後二回位に各四〇分乃至一時間ずつたべさせます。左の脛部が脛骨と同じ位の高さに膨れる程度でけい牧をひき上げるようにします。

冬の間は、牧草は生育が停止していませんが、晩秋の管理が良ければ、越冬は容易です。然し、冬の間は野鼠によく荒されるところでは、必ず鼠退治のためにフールトール団子五〜六個を鼠の穴に押し込み、上から土で穴を塞いでおきましょう。

養鶏試験場だより

鶏のコクシジウム症の 現状における問題点と対策

一 現状

鶏のコクシジウム症は予防剤（アンプロリウム等）の開発によって、幼・中雛期における急性型のものほとんど制圧されるようになったが、予防剤の性質と高濃度使用により大雛期から初産前後にかけて被害が突出し、成鶏期においても慢性型の被害が増加する傾向にあり注目されている。

二 この原因

(一) アンプロリウム等の予防剤が急性型（盲腸コクシジウム）のE・テネラノE・ネカトリクスについては非常に効果的であるが、慢性型（小腸コクシジウム）のE・アセルブリーナ、E・マクシマ、E・ブルネッティ等については薬剤に対する抵抗性が強く、効果が不完全で抗体が長く続かないため、大

予防剤	幼・中雛期	大雛・成鶏期
急性型…制圧（高濃度使用）	→再感染→発症 (テネラノ・ネカトリクス)	
慢性型…制圧不完全		→発症 (アセルブリーナ・マクシマ・ブルネッティ)

三 対策

(一) 予防剤の適正な使用
 アンプロリウムの飼料添加量
 幼・中雛期……〇・〇〇八%前後

雛期から成鶏期にかけて慢性型のコクシジウム症を起す原因になっている。(二) 予防剤の使用濃度が高くしかも連続投与される場合は、原虫を完全に死滅しフリーになるため自然免疫を阻害し、投薬休止後に再感染して急性型が慢性型と混合して猛威を揮う結果になる。

すが、最終刈取りあるいは終牧後、三〇〜四〇日経たないと十分な貯蔵ができません。従って最終利用時期はその地方の気温が五度になる約一ヶ月前頃までということになります。県内では、最北部で十月一杯、中部北部で十一月上旬、南部で十一月中旬下旬がその時期といえます。この時間より遅くまで利用すれば、生育が停止するまでの回復に要する日数が短くなり、養分貯蔵が不十分のまゝ冬越しを余儀なくされ、雪害、寒害を受け易く、来春の収量に影響します。

最北部の中国山系で根雪になる地帯では、余り伸び過ぎた状態で雪の下になることは、雪腐れ病の被害が大きくなりますので、草丈一〇センチ程度に掃除刈りをしておきましょう。また例年根雪になる十二月末を中心として、その十日前毎に、二〜三回セレン石灰を一〇アール当り三キロずつ散布すると安全です。根雪とはならず、霜柱が強い処では、次に述べる追肥をした後、十分に鎮圧しておくことが大切です。利用し終つたあとの追肥は、新しく播く場合の基肥に相当するものですし、来年の生産を高くするために絶対に欠かせない作業です。三要素で各々一〇アール当り三〜五キロを尿素、熔燐、塩加で施すか、草地化成肥料なら六〇キロ程度を全面に散布しておきましょう。特に火山灰土で燐酸吸収係

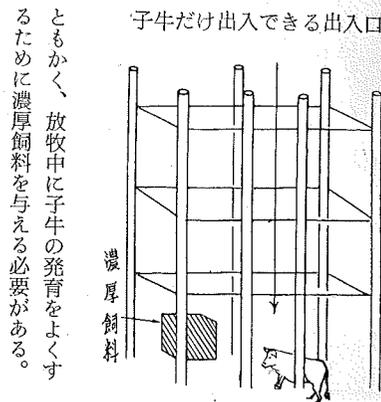
第3表 放牧と草刈り労働時間の比較

月別		5	6	7	8	9	10
試験区(放牧区)		7分07秒	6.28	5.33	4.32	7.00	5.00
対照区(刈りとり)	給与区	21.40	31.02	35.52	30.04	26.00	26.30
	草刈り労働管理に占める割合(%)	(11.11)	(17.07)	(19.21)	(15.43)	(14.30)	(14.00)
労働時間(%)		(15.59)	(55.12)	(53.96)	(52.25)	(55.70)	(52.83)

(注) 労働時間は1頭平均とする。()内は草刈り労働時間およびその割合

冬になって、放牧から帰り舎飼いに移る。牛舎は、牛の栄養を回復し、疲れをいやす休養の場所である。したがって、牛舎内の環境、とくに牛房の広さ、構造通風、換気、採光、衛生などに十分に注意して、安心して休養できるようにしたい。和牛の場合、経済上の点からりっぱな牛舎を特別に建てる必要はなく、昔からの深きゅう(厩)式の牛舎をスタンション式かつなぎ式にして、多頭飼育できるように改造すれば十分である。また、一面では使い勝手を便利にして、毎日の管理作業をできるだけ手間は省けるように自動給水器の備えつけ、飼料給与の工夫、草刈りの機械化等を考えていく必要がある。

牛舎は分娩、哺育
そして休養の場所



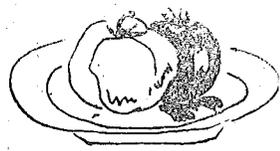
子牛の濃厚飼料給与場

ともかく、放牧中に子牛の発育をよくするために濃厚飼料を与える必要がある。

理想肥育、壮令肥育は、放牧せずにはじめから舎飼いにして管理するのである。このようにすればよく太るし、脂肪が筋肉のなかに交わり仕上がりがよいのである。このような牛はもはや体ができ上った牛なので子牛のように放牧して草を十分に与えて発育させる必要がなく、いきなり舎飼いするのである。しかし若令肥育の場合、六カ月令から十八カ月令まで肥育してト殺するのであるから、発育しながら肥育する所謂、発育肥育である。したがって肥育の前半は、放牧して良質の草を十分に食わせて発育をうながし、後半を舎飼いによって肥育の仕上げをするのである。

肥育は舎飼
いがよい

牛を飼う秘訣は、愛情と親和である。もちろん精神的なものだけでは牛は飼えないが、愛牛心のある人ほどよく牛を育て、結構もうけているのである。滋母が子供を育てる愛情に似て、名牛の産地ほど愛牛の美談がある。これらの愛情と親和こそは、日常牛に接してはじめて芽ばえるのである。この芽ばえの動機は、やはり舎飼いに生まれてくるものである。



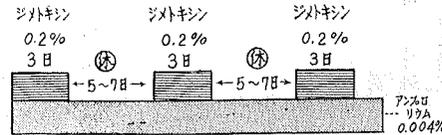
大雛期……〇・〇〇四〇・〇〇六〇
(大雛期に〇・〇〇八〇以上添加するとネカトリクスが発生する危険性がある。)

(二) 治療剤の選択と適正な使用

イ、治療剤としてはサルファ剤が良いが、薬剤の成分、作用を吟味して最も効果的なものを選択すべきである。

ロ、サルファ剤は何れの種類でも一日三回以上に分与し、最低三日間は連用することが必要である。しかし、七日以上連用すると多くは発育不良貧血等の副作用が現われ易くなる。ハ、発病群には予防剤のアンプロロウムと治療剤のサルファ剤を使用することが効果的である。

例えば図のように投薬し、二〜三クール繰り返すことにより、コクシジウム発育環の



中でサルファ剤の効かない予防期も合理的に処置できる。ニ、サルファ剤は経口投与が良く、中でも飼料に混ぜて与えるのが良い。注射の場合は経口投与のときの同量又は半量(普通は経口の1/10量)を

使用するが、血中濃度が早く低下する欠点がある。飲水の場合は飼料添加に比べて吸収率が低下し、腸での薬剤停滞時間も短かく飲水量も悪くなる。したがって、飼料に混ぜて腸から吸収させた場合が最も良い。

現在注目されている
ブルネットイについて

ブルネットイは慢性型で、小腸下部胃腸起始部附近に寄生し、成鶏コクシジウムの原因となる。

現在、英国・米国などで多発しているが、国内にもかなり浸潤し外国籍にも濃感染の例が多い。

症状は泥状、水様性下痢を起し、一般に貧血瘦削して呼吸器病群と二次感染することが多い。死亡率は低いが産卵が急激に低下し癩鶏になることが多い。糞便を鏡検すると大型のオオチストが見え、腸の寄生部位はジフテリー炎症が顕著である。

今後新しい型のコクシジウム症として多発が予想されるので、十分注意することが必要である。

(守屋研究員)

和牛試験場だより
和牛の放牧と
牛舎の比較
(その二)

放牧すれば牛を飼
う手間がはぶける

放牧はおもに昼夜放牧で、期間中はとんど見廻りする程度でほとんど手間がいらぬ。このように、牛にかける手間を省いて、他の農作業や賃労働に片がわりして、一石二鳥の金もうけをする事ができる。

当試験場では、若令肥育牛の肥育期間の前半を放牧したものと、舎飼いで草の刈り取り給与するものと二区に分け、労働時間の比較試験を行ったところ、第3表のとおりであった。

以上の結果から、試験区は刈り取り給与区に比較して五分の一ないし七分の一で、一日一頭当たり平均四ないし七分の短時間で、省力管理ができることがわかつた。

放牧中の子牛は若干
の濃厚飼料がいる

前に述べたように、優良草地ではほとんど濃厚飼料はいらないが、妊娠牛だとか、発育のさかんな子牛には若干の濃厚飼料を与える必要がある。

放牧場内で、子牛だけに濃厚飼料を与える方法として、クリープフィーディング法がある。これは放牧場内に図のような簡易な囲いを設け、このなかに子牛配合飼料をエサ箱に入れておく。入り口は子牛だけが出入りできるようにするので、母牛がはいれないようにしておく。このなかに子牛がはいつて自由にエサを食べる。これに簡単な屋根を設ければ雨天の場合によい。

組合員の利益増進のため 受精・孵化率の向上を

— 承前 —

種卵の管理と孵化率について

受精卵の取扱いは、食用に供する卵以上に慎重でなければなりません。種卵管理の適否が、孵化率に大きな影響をもたらします。もちろん、孵卵機へ入卵後の孵卵操作にも問題は少なくありません。しかし、これは組合員には直接の関係がありませんので、ここでは、組合員それぞれの責に帰する問題に就いて述べてみます。

選卵

次の卵は、種卵不適格であるから、抜き出して処分しなければならない。

種卵の生理学的零点（胚が發育を始める温度）は、二〇～二二度Cで、貯卵適温は一〇～一五度C。
一～七日間貯卵した種卵は、零下六度貯卵で三三%の孵化率で、それより貯卵温度上がることによくなり、三三度貯卵で最高となり、それより貯卵温度が上がるほど悪くなり、三三度貯卵では四〇%まで孵化率が低下したという実験記録がある。同じ実験で、八～一三日間貯卵の場合は、零下六度貯卵では全卵雛にならず、一〇度貯卵で最高の六二%、三三度貯卵でも孵化率が〇になっている。

卵重

二八日三三%、二九～三二日では〇になっている。

卵重もまた、孵化率に重大な影響がある。五〇グラム前後の小卵は、案外孵化率はよいが、発生する雛が小さくて、いわゆるジュニヤクラスの雛しかとれない。経済的な雛化率で、健康な雛が得られるのは五三～六三グラムの間で、これより大きくなっても孵化率が低下する。卵重で最高の孵化率を示すのは、五八グラムであった。

輸送

輸送中の種卵に異常な震動を伝え、破損卵を生じたり、孵化率に悪影響を及ぼさないためには、堅牢な輸送箱の中に、卵が動揺しないようすまみないように詰めることが必要である。

卵は、必ず鈍端を上になるように詰めなければならない。輸送中における通常の震動は、卵の詰め方さえよければ影響は少ないが、鈍端を上にして詰めた場合は悪影響が著しい。

種卵を、到着後直ちに孵卵機へ入卵しなければならぬような状態の輸送は好ましくない。輸送された卵を、二日間静置した後入卵したものは正常な孵化を示すが、到着後直ちに入卵した場合は異常な胚が増加するからである。輸送中の、気温のもたらす影響も重要である。

養鶏農協

だより

集卵

- 1、ネストの構造や位置が、適当でなければならぬ。直射日光が当たったり風が吹き抜けるような場所は特によくない。これは集卵以前の問題である。
- 2、集卵回数をなるべく多くし、鶏舎内に長時間卵を置かない。特に、酷暑期と厳寒期には、なるべく早く適当な貯卵場所へ移さなければならない。
- 3、点燈管理を行なう場合は、産卵時刻が不順になり勝ちなので、午前中だけでなく、午後の集卵回数も多くする。

貯卵

1、温度

指定重量に達しないもの、または過大な卵。ヒビ割れたもの。二黄卵その他畸形なもの。卵殻が正常でないもの。気室が過大または位置の悪いもの。大きな血斑のあるもの。汚染したもの、またはそれを洗った卵。

2、貯卵日数

貯卵日数が多くなれば孵化率が低下することは、上述温度の実験でも明らかである。

七～二度～一五～六度で貯卵した他の実験では、受精卵に対する孵化率が次のようになっている。

一～七日七六・二%、八～一四日七四%、一五～二一日六四・六%、二二

編集室より

和牛……は役用肉牛という呼び名であったが、いつの間にか肉用牛の名に変わっている。以前は水田なり畑なりの耕耘に黒牛がいなければどうにもならなかったものだ。農家の手足となってよく働いてくれたし、足を強くするためだといって替乗りの名牛芸をみせてくれた。和牛こそ「農家の宝」であり家族の一員でもあった。だから農家の人達は毎朝四時から草刈をしたものだ。

かつて本県には十二～三万頭いた黒牛も、今では六万頭に減ってしまった。三十七～九年にかけての牛価の低迷によって小牛生産はへるのみ……トラクターの爆音は県北の隅々にまでゆきわたり、黒牛の本場でも牛を使う姿はみられな

い。牛は食いつぶされて補充がきかないとまでいわれている現状である。三十九年頃、三万円くらいの値だった六～八ヶ月もの小牛が今では十萬円の声を聞く高値で売れている。以前は県北地方の肉牛生産地である川の上流地方が小牛値が安くて泣いており、川の下流地方の肥育地帯が笑いが止まらぬといわれたのが、この頃は反対になっているといえる。しかし肥育も儲かる方程式がある。六～八ヶ月ものを十萬で求めて一年飼うとすると十八～九ヶ月もので売る。五百円単価四五〇kgとすると二二萬五千円の収益、諸

経費濃厚飼料代五萬円、粗飼料八千円、計五萬八千円とすればこれを差引いて六万七千円が手に入る。国も県もおくればせ乍ら肉牛増産に大わらわで肉牛繁殖センターの設置と、新たに畜産事業団の仕事に輸入牛肉の買入れ売渡しを加えての調整を図っている。

畜産会では全国産肉能力共進会が岡山市で催されしかも本県が優れた成績を納めたので、本月号を和牛特集号とした。

また、県内の関係権威者で作られた肉用牛経営指標（小牛生産経営指標を含む）を畜産会で近く発刊発売予定であり、内容的に秀れたものである。早目に購入予約を申込み（一冊一五〇円、送料四五円）、肉用牛研鑽の資料とされるようお勧めする。

岡山畜産便り（十二月号）

第十七巻 第十一号

（通巻第百七十三号）

昭和四十二年十二月一日 発行

発行人 惣津 律士

編集人 花尾 省治

発行所 岡山市桑田町一の一

岡山県畜産会

電話岡山⑧八五七五番

振替 岡山市八五七五番

印刷所 岡山市駅前町

二丁目五番二二三号

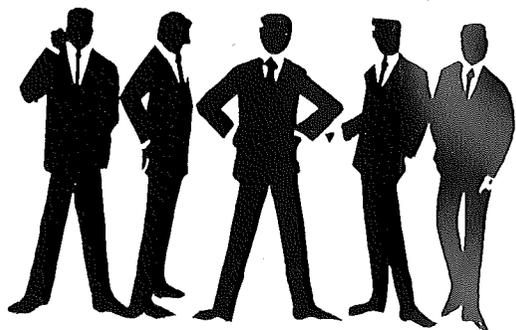
西尾総合印刷株式会社

定価 一部五十円（送料共）

洗練された都会センスの高級紳士服

舶来品と各種有名メーカー品取扱

（岡山県畜産会推奨）



東洋紡績 KK } 各社総代理店
御幸毛織 KK }
野村産業 KK }

株式会社 鈴木物産

岡山市富町1丁目1の4 TEL 52 - 2391